



## 「大学研修」を開催しました

12月17日(火)～19日(木)に、理数科1年生を対象として、自然科学分野の研究活動についての知識や技能を身に付けるとともに、研究活動についての意欲を高めることを目的として、佐賀大学で「大学研修」を実施しました。理工学部と農学部の先生方に実験・演習の指導をいただきました。

理工学部 理工学科 化学部門 成田貴行 先生「自然に学んだプラスチック材料」



- 「実験では『試行錯誤 (try & error)』を学びました。何をどうしたらどうなるのか、知識0の状態から始めて、「この結果になったから、理想に近づけるにはこうすればいいのではないかな?」とうまくPDCAサイクルを回す経験になりました。」
- 「何を課題にするかや、その課題に対しどのようにして解決を図るかなど、これからの自分に必要なことをたくさん学べた。将来自分が大学生として研究をする際に活かしていきたいと思っています。」

理工学部 理工学科 機械工学部門 橋本時忠 先生「圧力を利用する」



- 「実験では、コップやペットボトルに封をしたら、ひっくり返してもこぼれなかったので驚きました。容器内の水にかかる重力より外からの圧力の方が大きいからということでしたがとても面白いと思いました。」
- 「今回の研修は、自分が目指す医療分野への応用もあると聞いて参加しましたが、医療への関わり方もいろいろあることが分かりました。自分は工学系の分野から医療に進みたいと思っていたので、新しい道が開けたと感じました。」

理工学部 理工学科 電気電子工学部門 豊田一彦 先生 西山英輔 先生「電波ってなに?～テレビの電波を捕まえよう!～」



- 「電波の性質の一端を知り、私たちが普段使っているアンテナの仕組みを知ることができてよかったです。八木宇田アンテナは共振を応用していると聞いて、電場についてより一層興味がわいてきました。」
- 「何か物を作るとき、失敗しても何がだめだったのか考えて改善する、成功してももっと良いものは作れないか考えて改良するということが大切だと思った。」

理工学部 理工学科 都市工学部門 小島昌一 先生「箱模型実験で学ぶ建築熱環境の基礎」



- 「住宅のブラインドが部屋の中か外かで室温が全然違うということに驚きました。また、部屋の向きや南中高度まで考えられて家が建てられているということを知り興味を持ちました。」
- 「どうすれば人のためになる設計ができるのか、便利な暮らしになるのかを考えて研究されているのに触れ、建築分野にさらに興味を持つことができました。今は視野を広く持って多くのことに挑戦していきたいと思いました。」

農学部 生物資源科学科 生物科学コース 後藤文之 先生「植物工場における作物の生産」



- 「温室の天井を高くすることで室内の温度が外気温に影響されにくくなっていたり、床や骨組みを白くすることでより明るくしたりする等、自分では思いつかない工夫がたくさんあり、興味深かった。」
- 「大学の研究では、調べたいことを研究し、結果が出てから、さらに深く詳しく研究を続けられていた。どうしてそうなるのか、どうしたらいいのかということに疑問に感じながら研究をしていきたいと思った。」

農学部 生物資源科学科 食資源環境科学コース 北垣浩志 先生「発酵食品の香りを分析しよう」



- 「実験の失敗など様々な可能性を考えて余裕をもった期間を設定することが大切だということや、ゴム手袋やアルコール除菌をしっかりとって実験が失敗しないようにすること等を学ぶことができた。」
- 「実際に大学生の方がされている実験を見て興味がわいた。農学部を卒業した人たちには、食品メーカーに就職された方もいることを知って、食品系に進むという進路もいいなと思った。視野を広げることができて良かった。」

農学部 生物資源科学科 生命機能科学コース 光武進 先生「動物細胞を観察してみよう」



- 「大学院に進み生物学の研究をして看護師になりたいと思っています。自分が研究して発見したのによって、患者さんを救うことにつなげたいと思いました。」
- 「一つ一つの実験操作の意味を理解している大学生の方々を見て、自分も課題研究では、実験の手法は何を使うか、どうしてそのやり方でやるのか等、意味を確認しながらやっていきたいと思った。」